



広報

# なほ

市民の友

第674号 毎月1回発行  
2007年(平成19年)

3月

発行●那覇市 編集●秘書広報課  
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号  
☎867-0111 ●印刷 光文堂印刷株

市の人口と世帯	
2007(平成19年)1月末現在	
総人口	316,701(2,000)
男	152,988(1,062)
女	163,713(938)
世帯数	130,114(1,188)
住民基本台帳人口に別荘(外国人を除く)	
本 庁	93,657
真和志	105,465
首 里	58,406
小 浜	57,173



## 国保財政がピンチです

### 那覇市国民健康保険の現状

わが国で国民健康保険制度が創設されたのは昭和13年、沖縄県の場合昭和47年から施行されています。

この施行により、国民は職場の保険か国民健康保険のいずれかに加入する国民皆保険体制が築かれました。しかし近年、国民健康保険制度が抱える制度的な問題(職場の保険と比べ負担力が弱い加入者が多く、医療費がかかる高齢者の加入割合が多い)から事業運営が危機的状況を迎えています。

国民健康保険の財源には、加入者みなさまの保険税と国・県・市からの公的財源などが充てられて運営されています。これまで本市では平成5年度の税改定以来、実質的な増収増額を図るための引上げは行わず、収納率向上や国の特別支援策の引き出し、健康づくり事業などにより健全運営をはかってきました。

しかし、医療費の増加に保険税収が追いつかず、基金を取り崩して運営してまいりましたが、その基金も平成18年度には底をつき、もはや、このままでは、事業運営が立ち行かなくなっていく状況を迎えています。市では、国民が等しく医療を受けることが出来る、世界に誇れるこの医療制度を守り、健全な形で将来に引き継いで行くため、止むなく保険料引上げを提案しています。

\*詳しくは国保だよりをご覧ください。

紙面  
2 事業活動から出る「草木」は自ら資源化してください。  
3 那覇市立病院は地方独立行政法人への移行を目指します。  
4 市長の施政方針(要旨)  
6 情報P.A.C.K.

### 協働のまちづくり 那覇を紡ぐ



「協働」とは、まちづくりのために、市民・事業者・市民団体・行政などが、それぞれの特性を發揮しながら協力しあうことです。

市では、市民のみなさんや企業の方々と協力し、道路の美化保全を目的に、道路ボランティア協定を進めています。

道路ボランティアとは、みんなが使う道路を大切に、きれいで快適な道づくりを行うという趣旨で、広く市民のみなさん、地域団体、企業の方々に呼びかけ、賛同していただいたみなさんと行政との協働により役割分担を決め、道路の美化、維持管理をしていく取り組みのことをいいます。

市ではこれまでに、23の団体と道路ボランティア協定を結んでおり、今回、新たに那覇市シルバー人材センター、古島自治会、興南高校JRCインターアクトクラブの三者と、道路ボランティア協定を締結しました。

興南高校JRCインターアクトクラブが参加したことにより、同ボランティアでは初めて、学校と協定を結ぶことになりました。

1月10日に市長応接室で行われた協定書調印式で、同クラブの顧問を務める喜舎場淑子教諭は「生徒が活動を通じて、地域や社会と接点を持てばと願います」と期待を寄せました。

協定締結後、最初の作業日となった1月13日には、翁長市長も駆け付け、参加者を激励しました。

### 世代を超えて 美化清掃

この日は、あいにくの雨模様となりましたが、三団体に市の職員も加わり、約70名が古島を通る市道真嘉比山川線の約700メートルで、ごみ拾いや雑草取り、街路樹のせん定などの美化清掃を行いました。

孫のような年齢の高校生と協力しながら清掃作業を行った、シルバー人材センターの会員のみなさんの楽しそうな表情も、とても印象的でした。

センターの古波鯨勝美事務局長は「ボランティアは会員の生きがいづくりのひとつでもあります。今後は、市内の全ての高校と地域が協力して、美化活動を広げていければいいですね。参加した高校生が将来、社会の中心を担う頃には、身近な地域づくりは、自分たちの力で」と協働の意識も広がっていくでしょう」と期待を込めて話していました。



1月10日の調印式で決意も新たにすみなさん

本紙は「カラーバリアフリー(色覚障壁の除去)」につとめています。

お気づきの点がありましたらお寄せください。  
☎862-9942 秘書広報課

再生紙を使用しています。